

「りんごの実」

岩手県立中央病院 加藤 誠之

がん哲学外来の勉強を始めて、5年以上が経過しています。私が、がん哲学外来を行うのは稀ですが、数少ない、がん哲学外来を受けた方からすると印象が強いです。がん哲学外来のキーワードの一つは「愛」ですが、私のがん哲学外来は「愛」というより、人間を知ろうとするタイプです。

では、例えば、「愛」をどう認識しているかという、他者性、他者への有責性として捉えています。哲学を通して、知を通して愛を知る、そのための哲学です。だから、一見すると「愛」らしくはないですね。ここに至るまでの道のりは長く、多くの言葉を学び、それを捨て去って土に還すという繰り返しでした。先人の言葉を使うというより、・・・花や実を投げ捨てて、それを堆肥として土づくりをしているようなものです。

がん哲学外来でお話を伺っている間に、その方からいただいた種をこの畑に蒔き、短時間で芽かかせて、花となり実となった言葉をお贈りする。これが、私の学んだ答えです。りんごの木には葉が出る前に実がなるように…。土は同じですが、育てるものがその都度異なります。個人的には、完全に既存の用語のないがん哲学外来…、これを目指しているのです。

「門前仲町」がん哲学外来カフェ

ホーチミン市 神藤 吉彦

カフェの名称は、江東区深川地区に関連する地名の中から樋野先生に選んで付けて頂きました。カフェに付随して「樋野先生のがん哲学学校を読む会」があります。これは樋野先生のご了解を得て、毎週の「がん哲学学校」をコピーして会員に配信しています。

私（主宰）はふだんはホーチミン市に在住していますので、4か月に一度、細々とではありますが、講演会、がん哲学外来カフェを続けていきたいと思っています。

mailto:y-shindo@mvh.biglobe.ne.jp

■講演会と門前仲町がん哲学外来カフェのご案内■

開催日時：2017年 4月 2日（日）午後 1時半～2時半 講演会
2時半～4時半 懇話会

開催場所：深川スポーツセンター2階研修室

ここ深川の地で「門前仲町がん哲学外来カフェ」の第二回目が開催されます。がん罹患者と家族、支援者、医療関係者、哲学者などが知識と経験を持ち寄り、参加者の生活の質の向上を図る懇話会です（途中退席自由）。

懇話会に先立ち、以下の講演会が開かれます（午後1時半から）。

演題：食と健康と人間の未来

演者：寺岡 弘文 氏（東京医科歯科大学名誉教授、生命学者、歴史愛好家）

病態生化学・細胞分子生物学（細胞のがん化と多能性幹細胞）がご専門。

命を支える食と健康問題、そして人間の未来について語って頂きます。

入場無料（定員50名様先着順）

「底が頑丈な空っぽの器」に愛を込めて

目白がん哲学外来カフェ代表 森 尚子

乳がんの手術を受けた2年後、初期の子宮体がんになり手術をしました。術後経過が悪く、心身ともに病人になっていた時、がん哲学外来を知りました。樋野先生、がん哲学外来の皆様との出会いの中で、心の尊厳に触れるものがありました。品性を完成させ、周りのひとに最高のプレゼントを残すような生き方を自分の目標にしたい。それが、カフェの立ち上げにつながり、2016年8月から目白町教会でカフェを始めました。

今年のカフェの目標は「無邪気に一生懸命、小さなことに大きな愛を込めて」です。いらっしゃる方は、がん患者さん、ご家族、ご遺族、難病の方、医療従事者など様々で、1才の赤ちゃんから88才のご年配の方までいらっしゃいます。始めにみんなて歌を唄い、樋野先生の本を朗読します。カフェで語らった後、一人ずつ分かち合いの時を持ち、最後にその月のお誕生の方のお祝いをします。

アットホームで「医療のすき間」を埋める癒しと寄り添いの場、ひとりひとりが何かを感じたり、気づきを持ったりするきっかけの場になればと思います。

「底が頑丈な空っぽの器」を、スタッフ一同「いい覚悟」で力を合わせて続けていく所存です。よろしくお願い致します。

がん教育の手引き書

東御市教育委員会編

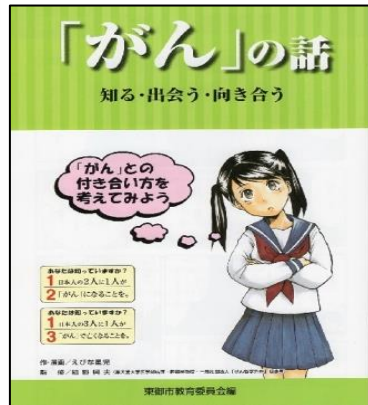
◇ 手引書の裏表紙には樋野先生からのメッセージとして「がんを正しく学び、向き合う心構えを養うことは、これからのあなたの人生にとって、大きな意味を持つことになるでしょう。今学ぶことが大切なのです」と書かれています。



東御市立中央病院 がん哲学外来 主任 樋野 典夫

樋野 典夫

守委員編「がん」の前～知る・出会う～、発行されることになりました。人に1人は「がん」にかかり、3人に1人が



がん哲学外来研修センター（編集発行：星野昭江）